

景気ウォッチャー調査（8月）の概要

< 景気の現状判断DIの推移 >

	5月	6月	(前月差)	7月	(前月差)	8月	(前月差)
各分野計	36.0	49.6	(13.6)	52.6	(3.0)	47.3	(-5.3)
家計動向関連	36.3	49.8	(13.5)	51.8	(2.0)	45.2	(-6.6)
企業動向関連	34.7	47.3	(12.6)	51.7	(4.4)	48.3	(-3.4)
雇用関連	36.6	53.4	(16.8)	59.5	(6.1)	58.4	(-1.1)

< 景気の先行き判断DIの推移 >

	5月	6月	(前月差)	7月	(前月差)	8月	(前月差)
各分野計	44.9	49.0	(4.1)	48.5	(-0.5)	47.1	(-1.4)
家計動向関連	44.8	47.9	(3.1)	46.4	(-1.5)	45.4	(-1.0)
企業動向関連	43.3	48.9	(5.6)	49.9	(1.0)	48.3	(-1.6)
雇用関連	49.3	57.0	(7.7)	58.7	(1.7)	55.3	(-3.4)

< 現状判断コメント > (:良、 :やや良、 :不変、 :やや悪、 x :悪)

[家計関連]プラス要因 :消費マインドの回復

東日本大震災の自粛ムードも一段落して、平常に戻りつつある(九州 = 商店街)。

[家計関連]マイナス要因 :テレビ等の駆け込み需要の反動

x アナログ放送の停波以降、テレビを中心に家電全般の需要が冷え切っている(北海道 = 家電量販店)。

[家計関連]マイナス要因 :天候不順による客足の鈍化

中旬以降、真夏の暑さから急に涼しくなり、雨の日も多かったことから、夏物商材の動きが止まっている(東北 = スーパー)。

[家計関連]マイナス要因 :農畜産物の買い控え

x 放射線物質の拡散による風評被害で、桃など旬の果物の販売量が前年比15%減で、牛肉も出荷停止の影響から同20%減となっている(東北 = スーパー)。

[企業関連]プラス要因 :生産活動の回復

東日本大震災に伴う部品調達難からの供給不足はほぼ解消されている。生産は順調であり、受注・販売共に増加傾向にある(四国 = 一般機械器具製造業)。

[企業関連]マイナス要因 :急激な円高に対する懸念

円高で取引先からのコストダウン要請が始まっている(南関東 = 精密機械器具製造業)。

[雇用関連]プラス要因 :製造業での生産回復を背景とした求人増

製造業派遣が好調で、自動車関連を中心に幅広い業種で需要が高まっており、人材の供給に苦労し始めている(近畿 = 人材派遣会社)。

[雇用関連]マイナス要因 :円高を背景とした採用の慎重な態度

東日本大震災後の復興需要や節電需要で求人は増えているが、極端な円高傾向により今後の採用を慎重に考えている企業が増えている(中国 = 人材派遣会社)。

< 先行き判断コメント > (:良、 :やや良、 :不変、 :やや悪、 x :悪)

[家計関連]プラス要因 :消費マインドの回復への期待

東日本大震災復興の本格化や福島第一原子力発電所事故への対応の加速化により、心理的な不安が改善されれば、消費マインドは高まる(九州 = その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター])。

[家計関連]マイナス要因 :消費者の先行き不透明感

世の中に対する漠然とした不安感と節電・節約意識から、消費行動に良い材料は見当たらない(四国 = スーパー)。

[企業関連]プラス要因 :生産活動の回復

特に自動車分野において、東日本大震災の影響による遅れを取り戻すため、増産の動きが本格化する(北関東 = 一般機械器具製造業)。

自動車産業では全体的に、少しずつ仕事量が増加している。また、9月または10月から勤務体制が変わり休日が週1日になるため、景気は良くなる(東海 = 金融業)

[企業関連]マイナス要因 :円高による経営環境の悪化懸念

現在の円高傾向によって、設備投資の計画中止や縮小、見直し等、かなり影響が出てくる(北関東 = 電気機械器具製造業)。

円高による為替リスクが懸念され、損益面では非常に厳しい状況が続く(中国 = 一般機械器具製造業)。

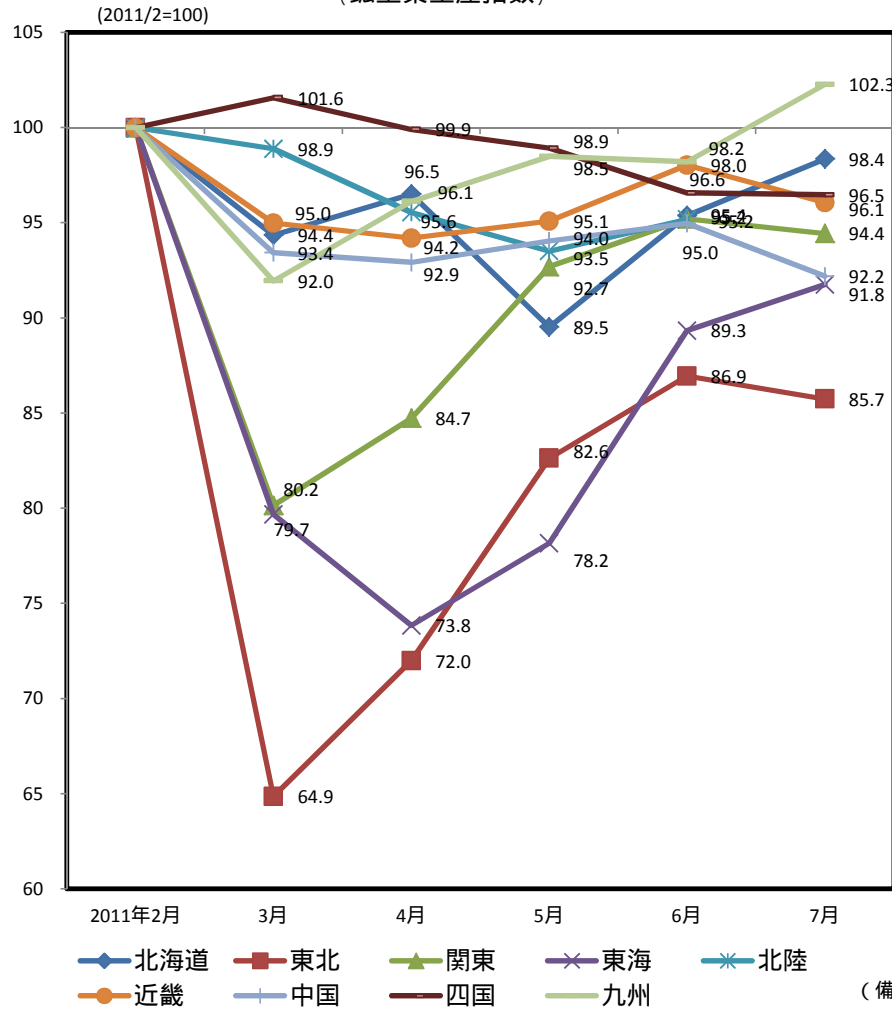
[雇用関連]マイナス要因 :円高を背景とした採用等の慎重な態度

急激な円高等の不安定要素もあり、各事業所とも採用には慎重な姿勢を崩しておらず、求人数の大幅増加は望めない(職業安定所)。

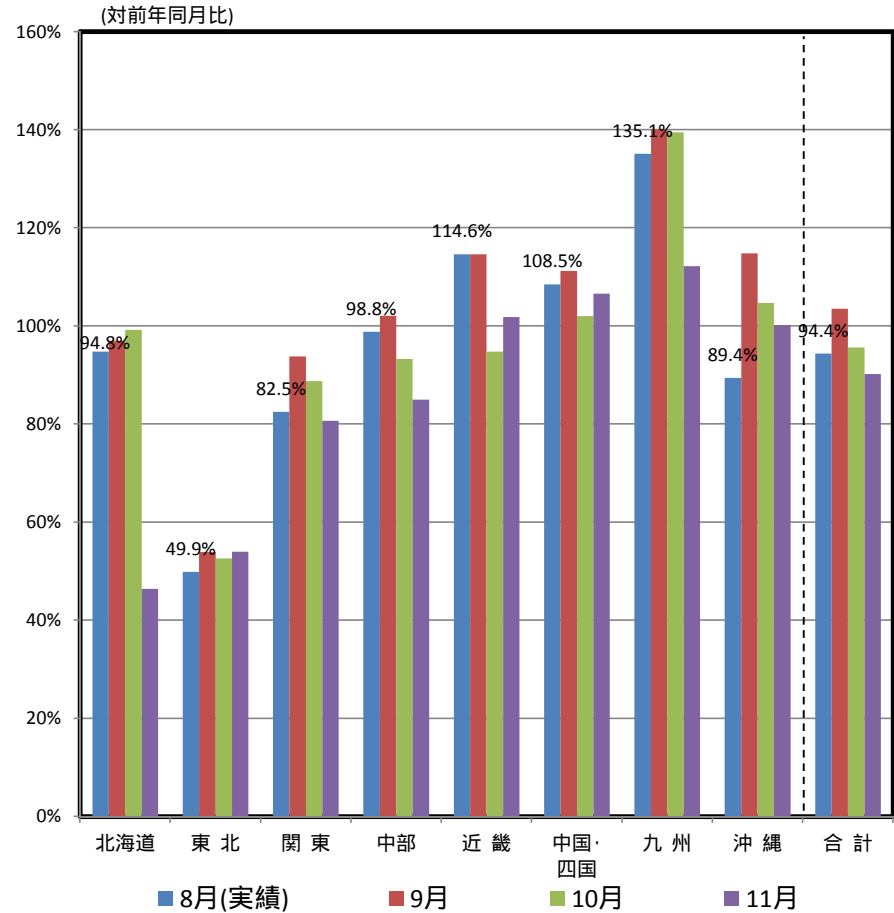
(備考) 内閣府「景気ウォッチャー調査」(2011年8月調査、調査期間:8月25日~31日)をもとに作成。

地域の経済

生産
(鉱工業生産指数)



国内旅行 (目的地別 売上・予約金額)



(備考) 左側：経済産業省「鉱工業生産指数」より作成。季節調整値。北陸の7月の数字は未公表。
 右側：民間大手旅行代理店より聴取。8月は売上額実績、9月以降は予約金額。
 図中の数字は8月の値。データは8月28日現在のもの。